

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
富加町立富加小学校	富加町教育委員会	公

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
富加町立富加小学校	www.town.tomika.gifu.jp/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
富加町立富加小学校	www.town.tomika.gifu.jp/	www.town.tomika.gifu.jp/
	www.tomika-es.tomika.gifu.jp/	www.tomika-es.tomika.gifu.jp/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 一部、計画通り実施できていない
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 実施していない

<特記事項>

学校ホームページ等を活用して、取り組みの様子を保護者が地域に知らせている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

富加町の園・学校数は、小学校1校、こども園1校である。町内のほとんどの園児が町内のとみかこども園に通っている。富加町では、小学校のALTがこども園での英語に親しむ活動の講師も務めており、幼児期から外国語に親しむことができるように計画している。

富加小学校においては、1・2年生の期間も教育課程の特例を受けて外国語活動に取り組むことで、3年生から始まる外国語活動に、幼児期から切れ目なく慣れ親しませ、コミュニケーション能力の向上を図っている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

令和5年度、1年生から6年生までの児童、保護者を対象に、外国語活動についてのアンケートを実施したところ、次のような結果であった。

【児童アンケート（単位：％）】

1：楽しくない 2：どちらかという楽しくない 3：どちらかという楽しい 4：楽しい

	質 問	3・4の割合
Q1	英語科・外国語活動の時間は楽しいですか。	83.4

1：使っていない 2：どちらかという使っていない 3：どちらかという使っている 4：使っている

	質 問	3・4の割合
Q2	英語科・外国語活動で学んだことを、日常生活の中で使っていますか。	66.9

【保護者アンケート（単位：％）】

1：していない 2：どちらかというしていない 3：どちらかというしている 4：している

	質 問	3・4の割合
Q1	お子さんは、英語科・外国語活動を楽しみにしていますか。	68.9

1：していない 2：どちらかというしていない 3：どちらかというしている 4：している

	質 問	3・4の割合
Q2	お子さんは、日常生活の中で、英語科・外国語活動で学んだことを使おうとしていますか。	55.7

令和2年度から学校評価の一部に外国語に関する教育活動についての評価項目を取り入れている。今後も続け、経年比較の成果と課題を行っていく。

令和5年度の結果から分かることとして、「外国語活動を楽しみにしている」児童のポイントは高いが、昨年度よりは2%低くなっている。保護者については昨年度より、4%低くなっている。内訳を見ると学級差が大きく、特に6年生ではポイントが低くなっている。これは、6年生で求められる英語科の資質・能力がより高度になってきたこ

とによる苦手意識のためであると考えられる。

「日常の生活の中で学んだことを生かそうとする意識」は児童、保護者共に高いとは言えない。外国人住民や外国人児童生徒が身近に少なく、学んだ言語を日常生活の中で話すことは少ないことが要因であると推察される。その一方で、児童については昨年度より16%も高くなっていることから、受け身の授業から主体的に学び外国語を活用する授業へと脱却されていることを感じる。

また、どちらの項目についても、児童のポイントを保護者のポイントが大幅に下回っている。これは、外国語活動への取り組みの周知が十分に図れていないからであると推察される。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4に示すような課題を踏まえて、令和6年度も継続する方向で本特例の改善を図ることが必要だと考えられる。そのためには、外国語活動を推進する教師によるリーダーシップの下、学校全体として外国語活動を系統的に取り組んでいくことが重要である。そして、英語科・外国語活動への取り組みを、学校だよりや学級通信などを通して保護者に周知していくことも大切である。

さらに、第4次岐阜県教育振興基本計画に基づいて推進する施策「ふるさと岐阜、ふるさと富加」を学ぶ「ふるさと教育」の充実を図る中で、英語科・外国語活動で身に付けたコミュニケーション能力を発揮させることで、「ふるさとへの愛着」をもちつつ、世界に視野を広げ活躍する人材の育成をめざすことができると考える。